

海軍公報

(部内限) 第四千二百四十二號

海軍大臣官房

昭和十七年十一月十四日(土)

○令 達

官房第六六四三號

戰時中勤勉手當支給規則第一條ニ掲クル現業ニ従事スル各廳ノ判任文官以下ニシテ昭和十七年閣令第二十五號ノ規定ニ依ル執務時間數ヲ超ユ服務シ又ハ公休日ニ出務スルモノニハ同條ノ規定ニ拘ラス別表ニ依リ手當ヲ支給ス

本令ハ昭和十七年十一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

昭和十七年十一月十一日

海 軍 大 臣

(別表添)

官房第六六四四號

昭和十七年官房第二〇〇二號中左ノ通告正ス

昭和十七年十一月十一日

海 軍 大 臣

別表備考第四號中「勤勉手當支給規則所定額」ヲ「昭和十七年官房第六六四三號別表ノ金額」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和十七年十一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

○通 牒

官房第六七一五號

昭和十七年十一月十四日

海 軍 大 臣

關係所屬長官殿

内地市町村忠靈塔建設指導ノ件申進

首題ノ件別紙ノ通定メラレ候條了知相成度

(別紙)

内地市町村忠靈塔建設指導要領

一 既ニ支那事變忠靈塔ノ建設セラレタルモノハ新ニ大東亞戰爭忠靈塔ヲ建設スルコトナク成ルベク既設

海軍公報(部内限)第四百二百四十二號 昭和十七年十一月十四日

二〇二

忠靈塔ニ合併シ之ヲ支那事變及大東亞戰爭忠靈塔トス

二 未ダ支那事變忠靈塔建設セラレザルモノハ支那事變、大東亞戰爭別個ノ忠靈塔ヲ建設スルコトナク兩者ヲ合シ一基ノ忠靈塔ヲ建設スルモノトシ其ノ建設ハ既定方針ノ通左ノ各項ニ依ル

(イ) 忠靈塔建設位置ノ設定整備等ハ成ルベク速ニ之ヲ行フ

(ロ) 石材等ニ依リ本建築ヲ得ルモノハ建設ニ著手ス前項以外ノモノハ取敢ズ假施設(木造等)ヲ行ヒ納骨祭祀ヲ行フ

三 東京及各軍港、警備府所在地市町村ニテ忠靈塔建設ノ際ハ別ニ定ムル標準ニ依リ官費ヨリ補助スルトヲ得 補助標準額ハ所要ノ向ニ別途通知ス

官房第六七一二號

昭和十七年十一月十四日

海軍省 副官

關係廳長殿

郵便物ノ宛名記載方ニ關スル件通牒

郵便物ノ宛名ニ部隊名ヲ表示スルニ當リ其ノ部隊長名ヲ冠記シタル隊名(例鈴木部隊等)ヲ使用スル向アルモ右ハ隊長異動ノ都度變更ヲ要スルノミナラズ一般ニ知悉セシムルニ時日ヲ要シ此ノ間郵便物ノ送達上支障多キニ鑑ミ自今之ヲ使用セザルコトトシ左記ニ依ルコトト相成候條可然了知相成度

記

一 所在地名及部隊名秘匿ノ要アルモノハ昭和十七年一月二十九日附部内限公報別冊郵便物取扱ニ關スル例規所定ノ所在地區別符及部隊區別符號ヲ用フルコト

二 所在地名及部隊名秘匿ノ要ナキモノハ固有ノ部隊名ヲ用フルコト

三 小型徵備船舶又ハ小型特設艦船等ニアリテハ特ニ船名ノ外配屬根據地隊名又ハ警備隊名等ノ區別符ヲ肩書キスルコト

○ 辭令

東京監理官ヲ命ス

海軍艦政本部造船造兵監督 會計官兼海軍航空本部造兵 監督會計官海軍主計大佐

森岡 龍夫

(別表)

勤 勉 手 當 日 額 表	等 級		執 務、時 間 外 服 業
	判 任 文 官	判 任 文 官	
一 勅令ニ依リ判任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ判任文官ノ額ヲ支給ス 二 夜業本務ノ者ニハ本表金額ノ二割ヲ増額スルコトヲ得	俸 給 月 額 百十五圓ヲ超ユル者 百十五圓以下ノ者 七十五圓以下ノ者 五十五圓以下ノ者	報 酬 月 額 百十五圓ヲ超ユル者 百十五圓以下ノ者 七十五圓以下ノ者 五十五圓以下ノ者	一時間乃至四時間以上迄 五時間以上
	(給料三十日分) 七十圓ヲ超ユル者 七十圓以下ノ者 五十五圓以下ノ者 四十八圓以下ノ者 三十六圓以下ノ者 二十四圓以下ノ者	一四〇〇 一六〇〇 一八〇〇 二二〇〇 二六〇〇 三四〇〇	一八〇〇 二四〇〇 二八〇〇 三四〇〇

(昭和十七年十二月十四日海軍公報(部内限))

東京監査官ヲ命ス(正副海軍省)	遞信局書記 大脇 爲正	(各通)	同 長 島 久	(各通)	同 集配員 村田 眞積	同 永田 敏幸	第一海軍軍用郵便所員ヲ免ス	通信書記 赤淵 英磨	(各通)	同 渡邊 正男	集配員 佐藤 直意	同 坂本 峰吉	第五海軍軍用郵便所員ヲ免ス(正副同)	○ 離 敷	○司令潜水艦變更	第三十三潜水隊司令ハ十一月十日司令潜水艦ヲ呂號第六十八潜水艦ニ變更セリ	○速達郵便料金ニ關スル件	當隊宛發送ノ速達郵便物ニシテ速達ノ普通地域内料金ヲ以テ差出サルル向キ有之候處當隊事務所所在地ハ速達ノ特別地域ニシテ配達郵便局ヨリ陸路一六軒迄ノ地域内ナルヲ以テ自今速達郵便利用ノ際ハ右ニ依リ可然
取計相成度	(香取海軍航空隊(假稱)設立準備委員長)	○海軍潜水學校本部移轉	來十一月二十三日當校本部ヲ廣島縣佐伯郡大竹町(現海軍潜水學校大竹分校)ニ移轉シ本校事務及學生、潜航術内火練習生、同電機練習生、同電機練習生、同電機練習生(工作兵ノミ)ノ教育ヲ同校ニ於テ實施ス	尙現吳本校ハ爾後海軍潜水學校吳分校トシ潜航術水雷練習生、同水中測的練習生及下士官兵潜水艦講習員(工作兵ヲ除ク)ノ教育ヲ實施ス	追テ十一月二十日以後到着見込ノ郵便物ハ右大竹町海軍潜水學校宛發送相成度	○赴任(轉勤)先ニ關スル件	十一月二十三日本校ハ廣島縣佐伯郡大竹町ニ移轉スルコトト相成候處當分ノ間潜航術水雷及水中測的練習生竝ニ下士官兵潜水艦講習員ハ海軍潜水學校吳分校ニ於テ教育セラルルコトニ相成候條當該職員及練習生、講習員ハ直接吳分校ニ着任(入校)セシメラレ度	(海軍潜水學校)	○開隊	第一航空基地隊ハ十一月一日木更津航空基地ヲ本部トシテ開隊セリ								

海軍公報(部内限) 第四百二十四十二號 昭和十七年十一月十四日

<p>○電話架設 横須賀海軍經理部霞ヶ浦支部 市内電話 霞空交換(二五〇番(支部長、部員) 二四九番(庶務)) 市内電話 阿見 四一番</p>	<p>○宿所並ニ電話 海軍技術研究所長海軍技術中將子爵徳川武定宅 千葉縣葛飾郡松戸町松戸六四二番地 電話松戸 五〇番 海軍技術研究所造船研究部長海軍技術大佐出淵巽宅 東京市目黒區鷹番町九一番地 電話荏原 七五四三番</p>	<p>○事務開始 吳鎮守府第六特別陸戰隊事務所ヲ十一月九日横須賀警備隊内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p>	<p>○事務所撤去 怒和島艦裝具事務所ヲ十一月十五日撤去セリ</p> <p>○取消 八月一日辭令欄八二六頁下段二十行目「中山若枝」ノ辭令ハ取消ス</p>
---	---	--	--

海軍公報 (部内限) 第四千二百四十三號

昭和十七年十一月十六日 (月)
海軍大臣官房

○令 達

官房第六六四九號
海軍戦利品等取扱規程ノ規定ニ依リ元受シタル兵備品
又ハ通常物品ハ各相互ニ保管轉換ヲ爲スコトヲ得
昭和十七年十一月十二日
海軍大臣

○感 状

感 状
田中海軍中佐ノ指揮セル
第四艦隊聯合特別陸戰隊
第一、第二及第三中隊
第三十二號 哨 戒 艇
第三十三號 哨 戒 艇
右 協 力 舟 艇
昭和十六年十二月二十三日未明敵米國ガ重要據點トシ

ヲ嚴重ナル防備ヲ施セル「ウエーキ」島攻略作戰ニ從
事シ折柄ノ強風怒濤ヲ冒シ熾烈ナル敵ノ防禦砲火ニ會
スルヤ機ヲ失セズ決然擱岸上陸ヲ敢行シテ激戰奮闘十
數刻ノ後遂ニ敵ノ指揮官ヲ擒ヘテ全軍ヲ降伏セシメ克
ク同島ヲ攻略シタルハ其ノ武勳顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感状ヲ授與ス
昭和十七年十月十六日
聯合艦隊司令長官 山本 五十六

感 状

中井海軍大尉ノ指揮セル
千歳海軍航空隊「タロア」派遣隊
昭和十七年二月一日敵米國機動部隊ノ「マーシャル」
群島方面ニ出現スルヤ寡兵獨力ヲ以テ犠牲ヲ願ミズ勇
猛果敢反覆敵ヲ攻撃シテ之ニ損害ヲ與ヘ遂ニ撃退シタ
ルハ其ノ忠烈顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感状ヲ授與ス
昭和十七年十月十六日

海軍公報 (部内限) 第四千二百四十三號 昭和十七年十一月十六日 一二〇五

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

感 狀

伊藤海軍少佐ノ指揮セル

第四 航空隊 飛行機隊

坂井海軍中尉ノ指揮セル

横濱海軍航空隊第二二號飛行艇

松江海軍飛行兵曹長ノ指揮セル

聖川丸第二二號水上偵察機

昭和十七年二月二十日「ソロモン」群島東方海面ニ敵米國ノ有力ナル機動部隊出現スルヤ適切ナル索敵ニ依リ早期ニ之ヲ捕捉シ爾後優勢ナル敵戦闘機群ト熾烈ナル防禦砲火ヲ排シ或ハ攻撃ニ或ハ觸接ニ勇戦奮闘各其ノ任ヲ竭シ寡兵克ク敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘ其ノ企圖ヲ完全ニ破摧シタルハ武勳顯著ナルモノト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十七年十月十六日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

感 狀

橋爪海軍大尉ノ指揮セル

横濱海軍航空隊

第七一號 飛行艇
第七二號 飛行艇

昭和十七年三月三日夜途上幾多ノ困難ヲ克服シツツ未翔ノ長程ヲ突破シテ敵布哇軍港ヲ奇襲シ其ノ軍事施設ニ有効ナル爆撃ヲ加ヘテ敵ニ多大ノ脅威ヲ與ヘ又「ジョンストン」「ミッドウエー」方面ノ大遠距離偵察ヲ敢行シタルハ作戰ニ寄與セル所尠カラズ其ノ功績顯著ナルモノト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十七年十月十六日

聯合艦隊司令長官 山本 五十六

○ 通 牒

兵備二機密第一〇三六號

昭和十七年十一月十四日

海軍省 兵備局長

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

戦利品等中指示物資ノ件通知

海軍戦利品等取扱規程第七條第二號ノ規定ニ依リ指示

セラントルモノ左記ノ通ニ付了知相成度
 追テ現品ノ送付ヲ受ケタルトキハ同規程別紙様式第
 三ニ準ジ速ニ通知相成度

記

一口五〇以上ノ 普通鋼鋼材	銑	鐵	特殊鋼鋼材
フエロアロイ類	ニツケル	コバルト	
鋼球	班軸承	銅及銅合金製品	
銅及銅合金地金	銅及銅合金屑	電線	
鉛及屑鉛	亞鉛及屑亞鉛	非鐵金屬鑛	
白金	イリヂウム	ロヂウム	
石綿	雲母	棉花	
綿糸	一口一、〇〇反以上ノ 一口一〇〇反以上ノ	羊毛	
麻類	皮革	アラビヤゴム	
コブ	松脂	加里セリン	
硼酸	硼砂及其原鑛	椰子殼炭	
ワセリン	苛性曹達		

經豫機密第一號ノ二五

昭和十七年十一月十一日

海軍省經理局長

海軍公報(部内限)第四百二十四十三號

昭和十七年十一月十六日

二二〇七

各海軍經理部長殿

内報又ハ通牒ニ依ル建築工事ニ關スル件
 通牒

當分ノ間左記ノ場合ニ於テ工事進捗上必要アルトキハ
 訓令接受前訓令ニ準ジ契約締結又ハ支拂ヲ爲シ得ルコ
 トニ定メラレ候條了知相成度
 尙指定官以外ノ者ヨリスル内報若ハ通牒ノ類又ハ口頭
 電話等ヲ以テスルモノニハ本件ヲ適用セラレザルニ付
 爲念

記

- 一 特急工事ニ關シ海軍施設本部總務部長ヨリ海軍建
 築部長宛内報アリタルトキ
- 二 海軍施設本部長ヨリ海軍建築部長宛工事着手通牒
 アリタルトキ

經物機密第二五號

昭和十七年十一月十四日

海軍省經理局長
 海軍省兵備局長

鎮守府、警備府、艦隊各參謀長
 各海軍經理部長
 各特設海軍經理部長 殿

海軍戦利品等處理要領ニ關スル件申進

今般達第二五五號ヲ以テ海軍戦利品等取扱規程制定相成候處獲得物件ハ大東亞戰爭完遂ノ爲極力之ガ效用ヲ發揮セシムル要アリ且其ノ處理ヲ迅速ニ行ハシメラルル趣旨ニ依リ同規程ノ如ク定メラレタルモノニ付實施ニ際シテハ右趣旨ニ基キ別記要領ニ依リ處理ノコトニ取計相成度

追テ(一) 同規程施行前訓令又ハ認許ニ依リ處理セル

戦利品等ニ付テハ正確ナル元受數量ヲ訓令又ハ認許月日及番號ヲ附記シテ同規程別紙様式第一ニ準ジ速ニ報告セシメラレ度

(二) 現在處理未済ノ戦利品等ニ付テハ處理案上申中ノモノヲ除キ同規程ニ依リ處理相成度

(別記)

海軍戦利品等處理要領

一 戦利品等ハ海軍戦利品等取扱規程(以下單ニ規程ト稱ス)第五條ニ依リ處理スルモノヲ除キ原則トシテ内地ニ送付シ内地到達ノ場合ハ規程第七條ニ依リ鎮守府又ハ警備府司令長官ノ定ムル所ニ依リ各部ニ於テ元受整理スルコト但シ規程別表第一中第一類ニ

屬スルモノハ制式、性能其ノ他ノ關係ヨリ直ニ兵器

ニ元受使用ヲ適當トセザルモノアル關係上之ガ處理ニ關シテハ受領報告ニ依リ其ノ都度指示セラレ

二 規程別表第二ニ屬スル獲得物件中部内各部ニ於テ其ノ儘使用シ難キモノト認メラルモノハ成ルベク軍港、要港以外ノ地所在ノ取扱機關ニ送付スルコト

三 貴石及之ニ準ズルモノ竝ニ其ノ製品ノ送付ヲ受ケタル場合ハ總テ海軍省經理局ニ送付スルコト

四 戦利品等ヲ内地ニ在ル送付先ト異ル地ニ陸揚セル場合ハ陸揚ヲ爲シタル地ノ鎮守府、警備府又ハ戦利品取扱所ハ送付宛先各應ト協議ノ上規程第七條ニ準

ジ處理差支ナキコト

五 現地機關ヨリ獲得物件ヲ内地ニ送付スル場合ニ於テハ當該物件ニ戦利品、押收品等ト明ニ表示シ買付物資等ト混同セザル様取扱フコト

六 軍用船以外ノ船舶ヲ以テ獲得物件ヲ内地ニ送付スル場合ハ規程第七條第三號ニ依リ戦利品證明書ヲ輸送船舶ノ長ニ交付スルコトニ定メラレタルハ獲得物件中ノ戦利品以外ノ物件ニ對シ詳細ナル區別ヲ爲ス

ハ對外的ニ却ツテ繁雜ナルヲ以テ稅關關係ニ於テハ凡テ戦利品トシテ表示スルコトニ一定セラレタルコ

尙現地ニ於テ部外ニ拂下グ處分等ヲ爲シタル場合ハ
關稅法適用上戰利品トシテ無稅扱トナラザルニ付之
等ノ物件ニ對シテハ證明書ヲ發行スルコトナキ様留
意スルコト

七 本邦專賣品中鹽、煙草、樟腦(粗製樟腦及樟腦油)

ニ付テハ關係各部ニ於テ其ノ品名、數量、積出地、
現保管場所並ニ部内ニ於テ使用スルトキハ其ノ旨
ヲ、軍需品製造ノ爲特ニ特定業者ヲシテ取得セシム
ル要アルトキハ賣渡希望先及用途ヲ專賣局又ハ地方
專賣局ニ通知シ同局ノ鑑定價格ニ依リ專賣局特別會
計ニ有償讓渡ノコトトシ其ノ代金ハ國庫ニ納入スル
コト

部内ニ於テ使用スルモノ又ハ賣渡希望先ヲ指定シタ
ルモノニ對シテハ賣渡先、賣渡數量及代價ヲ專賣局
ヨリ關係各部ニ通知セラル

八 權利ノ化體タル證券ハ海軍經理部(特設海軍經理
部ヲ含ム)ニ於テ保管シ其ノ銘柄、數量其ノ他必要
ノ事項ヲ海軍省經理局長ニ通知スルコト

九 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ處理ニ付テハ其ノ
都度指示セラル

(イ) 内地ニ到着物件中海軍省、艦政本部、航空本部
又ハ施設本部等ニ於テ直接必要トスルモノ
(ロ) 規程第七條第二號ニ依リ特ニ指示スル物件
兵備品又ハ通常物品トシテ整理濟ノモノト雖モ物資
統制上必要アルトキハ其ノ處分ニ關シ指示セラルル
コトアルコト

十 戰利品等トシテ元受セル兵備品又ハ通常物品ハ元
受後當該物件ノ狀況ニ依リ兵備品又ハ通常物品トシ
テ整理スルヲ不適當トナルベキ場合ヲ豫想セラルル
爲昭和十七年官房第六四九號ニ依リ相互ニ保管轉
換差支ナキコトト定メラレタルモ同令ノ適用ニ關シ
テハ戰利品以外ノ從來ノ兵備品又ハ通常物品ト混同
セザル様特ニ留意スルコト

十一 現地ニ於テ使用、保管等ノ爲規程第六條ニ依リ
兵備品又ハ通常物品ニ元受スル場合ハ所屬長官ノ定
ムル所ニ依リ整理上適當ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコ
トヲ得ルコトトシ極メテ輕微ナルモノニシテ獲得後
短期間後ニ於テ其ノ儘消費スルモノニ付テハ元受整
理ヲ行ハザルモ差支ナキコト

十二 部内及部外ニ於テ全然利用ノ價值ナキモノハ元
受ヲ行ハズ其ノ儘棄却差支ナキコト

十三 部外ニ拂下グヲ行フ場合ハ有償トスルヲ原則トシ特ニ無償トスルノ要アル場合ハ大臣ノ認許ヲ要スルコト

水交社、海仁會等へ拂下グヲ行フ場合モ亦前項ニ準ズルコト

十四 戦利品等ヲ部内ニ於テ使用ノ途ナキ爲部外ニ拂下グヲ行フ場合ハ南方物資暫定賣渡價格表記載ノ物資ニ付テハ同價格表ヲ基準トシ其ノ他ノモノニシテ公定價格アルモノニ付テハ之ヲ考慮ノ上賣却價格ヲ決定スルモノトシ拂下グニ付豫メ海軍省兵備局長及海軍省經理局長ニ協議スルノ外關稅、消費稅等ノ課稅品ノ國內拂下グノ場合ニハ昭和十七年經監第三八號通牒ニ依ルコト

前項ノ協議ハ規程第七條第二號第二項ニ定ムル海軍省兵備局長及海軍省經理局長宛通知ヲ兼用差支ナキコト

十五 重要物資ハ特ニ定メラルルモノヲ除キ原則トシテ内地物動計畫ニ組入レラルルコト

十六 不動産中重要ナルモノニ付テハ不動産管理原票ヲ調製スルコトト定メラレタルモ右ハ將來國有財産ニ編入セラルルコトアルベキヲ豫想セラレ其ノ際ノ

資料ヲ整備シ置ク要アリトセラレタルモノニ付其ノ趣旨ニ依リ處理スルコト

十七 戦利品ノ輸送又ハ保管等ニ要スル費用ハ軍需品ニ準ジ臨時軍事費臨時軍事費艦管費運搬費支辨トシテ元受ヲ爲スベキ處ニ於テ支拂ノ手續ヲ爲スコト

○ 雜 款

大東亞戰爭戰歿者故海軍軍屬殿樹木外二十三名ノ合同海軍葬儀ヲ來二十一日午後零時三十分第六十一海軍航空廠ニ於テ神式ニ依リ執行

海軍公報 (部内限) 第四千二百四十四號

海軍大臣官房

昭和十七年十一月十七日(火)

○ 令 達

官房第六七七五號

昭和十四年官房第三七一號ハ十一月三十日限之ヲ廢止ス

昭和十七年十一月十六日

海軍大臣

(昭和十四年官房第三七一號ハ海軍工作兵航空機修補講習實施規程ノ件ナリ)

○ 通 牒

軍務一機密第八五〇號

昭和十七年十一月十六日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

廢版秘密圖書處理法ニ關スル件申進

廢版秘密圖書ハ軍需部又ハ海軍文庫ニ還納ノコトニ定

メラレアル處近時秘密圖書ノ改廢頻繁ナルニ鑑ミ新版品ノ急速配付、還納途中ノ事故防止、軍需部格納庫收容力ノ緩和及艦船部隊並ニ軍需部ノ事務簡捷ヲ圖ル爲當分ノ間各秘密圖書取扱主任ニ於テ燒却ノ上燒却通知ニ表紙ノミ添附シ所屬兵備品會計官吏宛送付ノコトニ取計相成度

○ 辭 令

(各通) 千九百貳拾圓

千八百圓

徵用中年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(九〇海軍省)

千五百六拾圓

千參百貳拾圓

千四百拾圓

千參百貳拾圓

千參百貳拾圓

上坂 勝

藤田 廉作

向井 義一

武井 正

森 淳

白石 秀一

須藤 信夫

海軍公報(部内限) 第四千二百四十四號

昭和十七年十一月十七日

一一二一

(各通) 千貳百六拾圓 村木 忠義

千貳百圓 澤野 實

千貳百圓 香川 吾郎

千貳百圓 前嶋 耕三

千貳百圓 藤原 榮太郎

千貳百圓 松田 右左夫

千八百拾圓 坂元 三良

徵用中年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上^{ナリ}同)

通信書記 奥村 正夫

第一南遣艦隊司令部附ヲ免ス(以上^{ナリ}同)

海軍大佐 淺山 敏夫

(幹事) 海軍中佐 小原 尙

(各通) 海軍主計大佐 中垣 仙吾郎

海軍主計中佐 茶谷 東海

同 深瀬 清太郎

船舶海難事故處理委員會委員ヲ命ス(以上^{ナリ}同)

軍令部出仕海軍中佐 源 田 實

第一部第一課勤務ヲ命ス(以上^{ナリ}軍令部)

海軍大佐 山田 武次

海軍少佐 上田 四郎

(各通) 海軍主計少佐 中村 守男

海軍主計中尉 網野 誠

同 荒居 辰雄

第二課勤務ヲ命ス

海軍主計中佐 深瀬 清太郎

海軍主計少佐 子安 榮春

第三課勤務ヲ命ス(以上^{ナリ}海軍省兵備局)

海軍主計少尉 大原 徹夫

第二十二號掃海艇ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂

ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

海軍豫備大尉 藤森 三郎

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上^{ナリ}同)支出官

海軍省經理局長)

海軍主計中尉 伊藤 昌

第一百一海軍軍需部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂

ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計大尉 東海林 正治

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上^{ナリ}同)

海軍中佐 三浦 義四郎

分任兵備品會計官吏ヲ命ス

海軍中佐 三浦 義四郎

<p>同 山香 哲雄</p> <p>分任兵備品會計官吏ヲ免ス(以上正司水路部兵備品出納命令官)</p>	<p>○ 雜 款</p> <p>○司令艇變更 第十六掃海隊司令艇ヲ十月十四日第五玉丸ニ變更セリ 第五十六驅潛隊司令ハ十月二十五日司令艇ヲ第八玉丸ニ變更セリ尙第五壽丸宛郵便物ハ横須賀郵便局氣付第八玉丸宛送付相成度</p>	<p>○郵便物發送先 自今左ニ依リ發送相成度</p> <p>司令宛 卷雲 隊機關長宛 秋雲 軍醫長宛 夕雲 主計長宛 風雲 (第十驅逐隊)</p>	<p>(一)内ハ郵便物宛名ニ記載ヲ要セズ</p> <p>一 第三十四號哨戒艇 横須賀郵便局氣付 (第十軍用郵便所經由)</p> <p>一 第二五二航空隊 横須賀郵便局氣付</p>
<p>「ツ壹八四」</p> <p>一 第四海軍經理部クエゼリン支部 横須賀郵便局氣付 「ツ九〇」ツ五九 ツ壹貳〇」</p> <p>一 軍艦阿賀野 吳郵便局氣付</p> <p>一 第三警備隊 吳郵便局氣付 「七參四」七參五」</p>	<p>一 第八驅逐隊司令部、朝潮、滿潮 横須賀郵便局氣付 (ツ壹〇五)</p> <p>一 自應 同 (同)</p> <p>一 第十一航空艦隊司令部 横須賀郵便局氣付 「ツ六八」司令部 (第三十六軍用郵便所經由)</p>	<p>一 第四航空隊 木更津海軍航空隊氣付 「ツ壹壹貳」</p> <p>一 第二砲艦隊 吳郵便局氣付「七六參」 (七四〇) 七四貳壹氣付)</p> <p>一 日海丸 横須賀郵便局氣付 (ツ壹〇五)</p> <p>一 最上川丸 吳郵便局氣付</p>	<p>○學生入校期日 本年二月七日官房機密第一七一號ニ依ル本校第六期</p>

海軍公報(部内限) 第四千二百四十四號

昭和十七年十一月十七日

一一一三

特修科學生ハ十二月三日始業式ニ付其ノ前日迄ニ着校セシメラレ度

(海軍機雷學校)

○所在地名變更

當廠所在地(千葉縣君津郡巖根村)ハ今般木更津市ニ合併サレタルニ付當廠及當廠器材部木更津補給工場宛ノ郵便物並ニ荷物等ハ左記ニ依リ發送相成度

記

一 郵便物

千葉縣木更津市

第二海軍航空廠(又ハ器材部木更津補給工場)

二 荷物

千葉縣木更津市

第二海軍航空廠(又ハ器材部木更津補給工場)
(房總西線木更津驛)

三 乗降車驛

房總西線 巖根驛

○事務開始

第四十一海軍航空基地隊ハ十一月六日北海道千歲郡千歲海軍航空基地ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

海南海軍航空廠殘務整理事務所ヲ十一月一日撤去セリ

○取消
九月十日辭令欄九七一頁上段八行目「佐藤清三」佐藤修ノ辭令ハ取消ス

海軍公報

(部内限) 第四千二百四十五號

昭和十七年十一月十八日(水)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密第一四二四一號

南西方面艦隊民政部及同民政部ニ於ケル會計事務ノ監督ハ第百二海軍經理部長之ヲ行フ

南西方面艦隊附屬艦船部隊其ノ他前項以外ノ南西方面艦隊所屬各部ニ於ケル會計事務ノ監督ハ南西方面艦隊司令長官ノ指定スル所ニ從ヒ第百一海軍經理部長、第百二海軍經理部長又ハ第百三海軍經理部長之ヲ行フ

南西方面艦隊司令長官前項ノ指定又ハ其ノ變更ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

昭和十七年十一月十八日

海 軍 大 臣

○辭 令

徵用中自今年額千六百五拾圓ヲ給ス(昭和十六年海軍省)

海軍技術會議員海軍中佐 松本 作次
海軍艦政本部技術會議員ヲ命ス(註同)

同 小林 儀作
海軍艦政本部技術會議員ヲ命ス

同 藤井 貞男
海軍航空本部技術會議員ヲ命ス(以上註同)

海軍大佐 堀江 義一郎(艦本)

同 龜井 凱夫(大鯨)

同 佐藤 佐(艦本)

同 小山 敬明(同)

海軍中佐 井上 勇(横鏡)

同 天谷 孝久(航本)

同 村山 孝治(大鯨)

海軍少佐 小泉 弘(横鏡)

同 坂上 五郎(艦本)

海軍公報(部内限) 第四千二百四十五號

昭和十七年十一月十八日

一一二五

(各通)

同 山崎 譽(大鯨)
 同 江草 隆繁(同)
 同 砂田 正二(同)
 海軍大尉 八角 高士(同)
 同 早川 弘之(同)
 同 小橋 陸三(同)
 海軍中尉 坂田 小三郎(同)
 海軍軍醫大尉 天海 隆一郎(同)
 海軍主計大尉 山岸 二郎(同)
 海軍技術少佐 大平 正夫(横廠)
 同 近藤 忠夫(艦本)
 軍艦大鯨審議委員ヲ命ス(付前海軍艦政本部)
 水路部部員海軍主計大尉 佐藤 退三
 水路部會計部長海軍主計大佐石井秀次郎着任迄同職
 代理ヲ命シ置候處差免ス(付前水路部長)

○ 雜 款

○司令潜水艦變更
 第十九潜水隊司令ハ十一月十二日司令潜水艦ヲ伊號第
 百五十七潜水艦ニ變更セリ

○事務所設置
 呂號第四百、第五百潜水艦艇裝具事務所ヲ十一月十三
 日川崎重工業株式會社艦船工場内ニ設置シ事務ヲ開始
 セリ

○事務開始
 第四十一海軍航空隊ハ十一月六日北海道千歲郡千歲海
 軍航空基地ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務引繼
 前任 水路部會計部長職務代理 海軍主計大尉 佐藤 退三
 後任 水路部會計部長 海軍主計大尉 石井秀次郎
 十一月十三日事務引繼ヲ了ス
 (水路部)

○殘務整理
 青葉司令部殘務整理ハ軍艦青葉ニ於テ行フ
 追テ郵便物ハ吳郵便局氣付青葉司令部殘務整理員宛
 ○事務所撤去
 海軍大島部隊事務所ヲ十一月十五日撤去セリ
 追テ同隊關係郵便物ハ横須賀郵便局氣付ウ壹〇五ツ
 壹八九宛送付相成度
 第十砲艦隊殘務整理事務所ヲ十一月十五日撤去セリ

海軍公報 (部内限) 第四千二百四十六號

昭和十七年十一月十九日(木)

海軍大臣官房

○通牒

官房第六七七一號

昭和十七年十一月十六日

海軍省 副官

關係廳長殿

海軍潛水學校分校ノ呼稱ニ關スル件通牒

來十一月二十三日海軍潛水學校ノ職員、學生、練習生等ノ大部山口縣佐伯郡大竹ニ移轉ニ付同日以降吳軍港所在ノモノヲ當分ノ間部内限リ海軍潛水學校吳分校ト呼稱スルコトニ定メラレ候

(參照) 本年官房第二三三四號ニ依ル海軍潛水學校大竹分校ト呼稱スル件ハ自然消滅(四月十六日本欄)

○辭令

第二十四特別根據地隊 參謀兼副長海軍中佐	志 柿 謙 吉 (昭和十七年九月十日)
第二十三特別根據地隊 參謀兼副長海軍少佐	黒 木 照 男 (昭和十七年九月二日)

第四警備隊分 隊長海軍大尉	鬼 塚 采 雄 (昭和十七年九月十日)
第二十三特別根據地隊 附兼分隊長海軍大尉	廣 重 市 次 郎 (昭和十七年十月六日)
第二十四特別根據地隊 附兼分隊長海軍中尉	三 枝 八 郎 (昭和十七年九月十日)
第二十三特別根據地隊 附兼分隊長海軍兵曹長	小 玉 壽 吉 (昭和十七年十月十五日)
第二十三特別根據地隊 參謀兼副長海軍中佐	野 地 宗 助 (昭和十七年九月一日)
第二十三特別根據地隊 附兼分隊長海軍大尉	横 山 幾 次 郎 (昭和十七年十月六日)
第二十三特別根據地隊 附兼分隊長海軍兵曹長	福 島 勇 作 (昭和十七年十月十五日)

海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ニ指定中ノ處名下日附ヲ以テ指定ヲ解ク

海軍大臣

海軍總政本部勤務兼造 若 狹 優

兵監督助手海軍技手 廣海軍工廠附ヲ命ス(其ハ海軍省)

海軍公報 (部内限) 第四千二百四十六號 昭和十七年十一月十九日

一一一七

軍令部出仕海軍少佐 木下 定輔
 第三部勤務ヲ命ス(註同軍令部)
 軍令部出仕海軍中佐 山屋 太郎
 戰史部勤務ヲ命ス
 海軍主計中尉 佐藤 陸
 第三部勤務ヲ命ス(以上註同)
 軍令部出仕海軍少佐 岩部 六郎
 戰史部勤務ヲ命ス(註同)
 軍令部出仕海軍大佐 毛利 剛二郎
 戰史部勤務ヲ命ス
 軍令部部員海軍中佐 小林 儀作
 第二部第四課兼同第三課第一部第二課勤務ヲ命ス
 同 福岡 武
 第三部第八課勤務ヲ命ス
 軍令部出仕海軍大尉 淵脇 正熊
 第三部第六課勤務ヲ命ス(以上註同)
 軍令部出仕海軍少佐 北村 肇
 第一部第二課勤務ヲ命ス
 同 井上 正夫
 第四部第九課勤務ヲ命ス(以上註同)

海軍中佐 小林 儀作
 參謀部第二部第四課勤務ヲ命ス
 同 福岡 武
 參謀部第三部第八課勤務ヲ命ス
 海軍大尉 淵脇 正熊
 參謀部第三部第六課勤務ヲ命ス(以上註同大本營海軍部)
 海軍主計大佐 小澤 嘉藏
 廣島海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル經費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス
 海軍主計中佐 大友 美能理
 八幡海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル經費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス
 海軍技術少佐 深井 六郎
 室蘭海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル經費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス(以上註同支出官 海軍省經理局長)
 海軍中尉 遠藤 勇
 第一課勤務ヲ命ス(註同海軍省軍需局)
 海軍書記 小松 恭藏
 特設海軍燃料廠補給部勤務ヲ命ス(註同)

海軍技術中佐 西村 雄二(佐廠) 二月十七日官房機密第二〇五〇號模寫電送裝置實驗 委員ヲ命ス 海軍技術大尉 志田 林太郎(同) 二月十七日官房機密第二〇五〇號模寫電送裝置實驗 委員ヲ免ス(以上並同海軍艦政本部)	
(各通) 同 池田 勇 同 牧野 耕三 同 山本 登	同 齋藤 馨 同 山本 央次 同 田邊 義彦 同 横江 透 同 銘苅 朝通 同 中林 奇一 同 矢吹 豊彦 同 古賀 謙次 同 淺田 登 同 坂本 虎雄
總務課兼第一課勤務ヲ命ス (各通) 同 齋藤 馨 同 山本 央次 同 田邊 義彦 同 横江 透 同 銘苅 朝通 同 中林 奇一 同 矢吹 豊彦 同 古賀 謙次 同 淺田 登 同 坂本 虎雄	
第一課兼總務課勤務ヲ命ス (各通) 同 坂本 虎雄	
第一課勤務ヲ命ス 同 吉岡 善三郎 同 相羽 吉之助 同 野村 正治 同 野本 英策 鐵道官 保坂 啓介	
第二課兼總務課勤務ヲ命ス 同 山田 政次郎	
第二課勤務ヲ命ス 海軍屬 山田 芳三郎 同 山田 政次郎	
總務課兼第一課第二課勤務ヲ命ス (各通) 同 矢島 武夫 同 秋山 健司 同 荒木田 定弘 同 岡安 晴昌 同 市野 恒吉 同 土屋 守人 同 藤沼 義信 同 山田 博 同 土屋 勇	
總務課兼第一課勤務ヲ命ス (各通) 同 坂本 虎雄	

海軍公報(部内限)第四千二百四十六號

昭和十七年十一月十九日

一一一九

<p>第一課勤務ヲ命ス</p> <p>囑託 高野 外次 同 廣田 文男 同 荒尾 偕一 同 鈴木 政一</p> <p>鐵道官補 西田 龍吉 同 鈴木 正木 同 岡村 明治 同 佐藤 七治 同 上野 逸勝 同 田上 靖夫 囑託 小野 利雄</p>	<p>(各通)</p> <p>第二課勤務ヲ命ス(以上計前海軍運輸部)</p>	<p>○雜款</p> <p>○郵便物發送先</p> <p>(一) 内ハ郵便物宛名ニ記載ヲ要セズ</p> <p>一 日章丸 吳郵便局氣付</p> <p>一 漣 横須賀郵便局氣付 (第十軍用郵便所經由)</p> <p>一 若鷹 横須賀郵便局氣付 (第十軍用郵便所經由)</p>
<p>一 伊十潜司令部、伊十潜、伊十六潜司令部、伊十六潜、伊二十潜、伊二十一潜司令部、伊二十一潜、伊二十二潜、伊二十四潜</p> <p>横須賀郵便局氣付 (第三十四軍用郵便所經由)</p> <p>一 伊二十九潜司令部、伊二十九潜、伊二十七潜</p> <p>佐世保郵便局氣付 (第四十一軍用郵便所經由)</p> <p>一 日枝丸 横須賀郵便局氣付 (第三十四軍用郵便所經由)</p>	<p>一 第七五一航空隊支隊 佐世保郵便局氣付 「イ壹九 ッ六九 ッ壹七四」</p> <p>一 第七〇一航空隊 横須賀郵便局氣付 「ッ壹〇五 ッ壹五七」</p> <p>一 讚岐丸 横須賀郵便局氣付 「ッ壹〇五 ッ壹〇九」</p> <p>一 第五氣象隊 北海道厚岸局氣付 「ッ壹四四」</p> <p>一 横鎮第三特別陸戰隊 横須賀郵便局氣付 「ッ八四 ッ壹〇八 ッ壹六貳」</p>	<p>一 霧島丸 神戸市神戸區波止場町神戸在 勤海軍武官府氣付</p>

<p>一 八海丸 横須賀郵便局氣付 「ツ壹〇五」ツ壹〇九」</p> <p>一 伊良湖 吳郵便局氣付</p> <p>一 第十二掃海艇 普通便及急送扱へ 吳郵便局氣付 (第二十六軍用郵便所經由)</p> <p>一 第一根據地隊司令部 横須賀郵便局氣付 「ツ壹貳〇」ツ壹九貳」</p> <p>一 第一通信隊 横須賀郵便局氣付 「ツ壹貳〇」ツ壹九參」</p> <p>一 杵埼 横濱市三菱重工業株式會社横濱船渠氣付</p>	<p>○訂正 十一月十一日部内限公報第四千二百三十九號辭令欄中海軍主計大尉岡田真寬及海軍主計少佐國司 寬ノ辭令月日「十月三十一日」ヲ「十月三十日」ニ訂正ス</p>
--	---

海軍公報(部内限) 第四千二百四十六號 昭和十七年十一月十九日

一一三二一

0449

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年十一月十九日 (木)
海軍大臣官房

○通牒

海功調機密第九號ノ三四

昭和十七年十一月十九日

海軍功績調査部長

各廳長殿

死歿者ノ功績明細書ニ關スル件申進

死歿者ノ功績明細書ハ死歿後直ニ進達ノコトニ定メラレアルモ特殊進級具申中或ハ諸種ノ事情ニ依リ死歿發表差控中ノ者等ニ對シテハ其ノ進達ヲ控ヘ居ル向アルヤニ見受ケラルル所斯クテハ功績調査事務進捗上甚ダ不都合ノ點アリ一面又速ナル功績具申ハ特殊進級決定其ノ他事務處理上ノ一資料トモナルベキヲ以テ死歿ノ際ハ規定通直ニ功績明細書進達ノコトニ取計ハレ度尙行衛不明ノ者ニ對シテモ死歿者ト同様ニ處理セラレ度又之等ノ功績明細書ニハ特殊進級具申中、死亡發表差控中、又ハ死亡認定未済等ノ事實ヲ記入附箋セラレ度

候

海軍公報 (部内限) 號外

海軍公報 (部内限) 第四千二百四十七號

昭和十七年十一月二十日 (金)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第五八一三號ノ二
官房第五八一三號中左ノ通改正ス

昭和十七年十一月十九日

海 軍 大 臣

第二號ニ中「海軍工廠資金所屬材料(資金外材料ハ海軍工廠資金會計ノ材料ニ組入ノ上)ヲ」ヲ削ル

(參照) 官房第五八一三號ハ工作艦(特設工作艦ヲ含ム)、特設海軍工作部、特設海軍航空廠、特設特別工作部、特備隊附屬ノ修理工場、艦船又ハ兵器ノ修理ヲ爲ス特設部隊等ニ於テ工事ニ要スル契約、通常物品及工事費ノ整理ニ關スル件ナリ
(昭和十七年海軍公報(部内限) 第四二〇七號)

○ 通 牒

海運第八四號

昭和十七年十一月十日

海軍省經理局長
海軍運輸部長

海軍公報(部内限) 第四千二百四十七號

昭和十七年十一月二十日

一一三三

關係各廳長殿

艦船並ニ徵借船舶ニ依ル民間輸送物資ニ對スル保險處理ニ關スル件通知

艦船並ニ徵借船舶ニ依リ輸送スル民間物資ニ對スル從來ノ保險契約ノ方法ニ據ルトキハ機密保護上遺憾ノ點有リタルヲ以テ今般別紙「特殊船舶積貨物海上保險及戰爭保險處理要綱」ニ依リ日本内地ニ於テハ昭和十七年十一月二十日ヨリ其ノ他ニ於テハ昭和十七年十二月二十日ヨリ取扱ハルルコトニ定メラレタルニ付了知相成度
追テ別紙特殊船舶積貨物海上保險及戰爭保險處理要綱ハ所要ノ向ニ送付ス

○ 辭 令

五洋丸三等機關士 小林 正樹
囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千八拾圓ヲ給ス(昭和十七年海軍省)

海務局海務官 石井 善夫

吳鎮守府ニ於ケル事務ヲ囑託ス(三十八回同)

東京帝國大學教授 長谷部 言人

海軍省事務ヲ囑託ス(三十七回同)

荏原 至誠

大湊警備府ニ於ケル醫療業務囑託ヲ解ク(九回同)

河部 國太郎

海南警備府ニ於ケル事務囑託ヲ解ク

平岩 弁一

南西方面艦隊ホルネオ民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ

部内限奏任官待遇トス

(各通)

宮本 曉男
關 芳道

海軍省事務ヲ囑託シ部内限判任官待遇トス

近野 留三郎

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額參千圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

平尾 敏也

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額參千六百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(以上十四回同)

專賣局長 稻森 實

海軍省事務ヲ囑託ス(十四回同)

山下 一

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏

任官待遇トス

倉本 茂

海軍省事務囑託ヲ解キ南西方面艦隊民政府ニ於ケル

事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

大西 義明

寺田 英一

中井 俊雄

中川 嘉壽

和田 源水

山岸 七之丞

半井 修一

山東 圓次郎

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏

任官待遇トス(以上十四回同)

小関 憲太郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(十四回同)

第三南遣艦隊事務囑託

自今報酬年額千八百貳拾圓ヲ給ス

畑 正義

海軍航空本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上計同)

藤島 喜久男

海軍艦政本部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク

安積 樟三

大阪警備府ニ於ケル水先業務囑託ヲ解ク(以上計同)

高野 武平

海軍省兵備局ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

森川 覺三

(各通)

二階堂 正治

堀米 建一

田中 親良

海軍省兵備局ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上計同)

山形 八郎

(各通)

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

小島 芳雄
高田 誠作

海軍省事務ヲ囑託ス

島谷 榮二郎

但シ報酬年額千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上計同)

東京帝國大學教授 平泉 澄

霞ヶ浦海軍航空隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ報酬年額貳百圓ヲ贈與ス

齋藤 隆三

霞ヶ浦海軍航空隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
但シ報酬年額貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
(以上計同)

武久 昌次

海軍航空本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

志鶴 忠夫

海軍航空本部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

海軍公報(部内限) 第四千二百四十七號

昭和十七年十一月二十日

一一二五

海軍航空本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

小田 勇

吳海軍工廠電氣部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(同)

渡邊 幸太郎

海軍省事務ヲ囑託ス(同)

内閣書記官 澁江 操一

八谷 實

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

寺嶋 景作

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千九百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

石井 小一郎

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

灘吉 敏文
秋山 敬四朗

海軍省事務ヲ囑託シ部内限判任官待遇トス

大泊地方在勤海軍武官府ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

石岡 喜太郎

第一海軍航空廠ニ於ケル海軍共濟組合醫療業務ヲ囑託ス

鈴木 敏

但シ報酬年額貳千百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

(各通)

青地 忠三

海軍航空本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

渡邊 俊平

海軍省事務囑託ヲ解ク

熊生 榮

(各通)

吉川 正雄
逸見 信夫
梅野 重造
立花 榮四郎
橋本 五雄
本多 良三郎
石井 彦太郎

海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス 澤 保彦

(各通)

中川 清海
志村 政彦
大江 覺次郎
富井 宗治
田坂 信一

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス 海軍技術研究所囑託

百五拾圓 拔山 平一

同 渡邊 寧

參百圓 同 富永 齊

同 百五拾圓 山田 光雄

(各通)

同 百五拾圓 沼知 福三郎

同 百五拾圓 長谷川 萬吉

同 百圓 淺田 常三郎

同 貳百圓 赤崎 繁

同 百五拾圓 永井 健三

自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ贈與ス

櫻井 利雄

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

堀 義 路

水路部ニ於ケル氣象調査事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス

中村 常治

海軍省事務ヲ囑託ス

村上 俊雄

海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金貳百圓ヲ贈與ス

海軍省事務囑託ヲ解ク

(各通)

半田 不二夫

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

岡野 實

海軍公報(部内限) 第四千二百四十七號 昭和十七年十二月二十日

一二二七

秋山 玉吉

三崎 龍二

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
海軍省經理局ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額貳千四百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

(各通) 丸山 忠雄
小野 成政

第四艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上註同)

海軍主計中尉 横井 恒一

第百一設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲
艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(註同) 支出官 海軍
省經理局長)

舞鶴海軍經理部部員 海軍主計少佐 堀 俊藏

艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計大尉 花輪 桂

右同分任出納官吏ヲ免ス(註同)

海軍主計兵曹長 堀口 誠一

第八氣象隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦
隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(註同)

海軍公報

(部内限) 第四千二百四十八號

昭和十七年十一月二十一日(土)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第六八七一號

海軍省軍需局資材班規程左ノ通定ム

昭和十七年十一月二十日

海 軍 大 臣

海軍省軍需局資材班規程

第一條 當分ノ間海軍省軍需局ニ資材班ヲ置ク

第二條 資材班ハ海軍省軍需局ノ所掌ニ屬スル左ノ事

務ヲ分掌ス

一 軍需部、燃料廠及衣糧廠ニ於ケル新設及補修用

資材ニ關スルコト

二 軍需關係利用工場ニ於ケル所要資材ニ關スルコ

ト

三 軍需關係利用工作力ノ擴充統制ニ關スルコト

第三條 資材班ニ班長及班員ヲ置ク

第四條 班長及班員ハ軍需局長之ヲ命ズ

第五條 班長ハ海軍省軍需局長ノ命ヲ承ケ班ノ事務ヲ掌理ス

第六條 班員ハ班長ノ命ヲ承ケ服務ス

第七條 班長及班員タルベキ人員左ノ如シ

班長

軍需局局員 一人(海軍艦政本部出仕ノ兼務)

班員

軍需局局員 二人

○ 通 牒

兵備二機密第一〇五七號

昭和十七年十一月二十一日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

硼砂硼酸ノ消費規正ニ關スル件申進

首題物資需給ノ現狀ニ鑑ミ極力部内在庫品ノ使用範圍及使用量ヲ制限シ、以テ光學「ガラス」等ノ如ク硼砂

海軍公報(部内限) 第四千二百四十八號

昭和十七年十一月二十一日

一一三九

硼酸ヲ絶對必要トスル主要軍需ノ生産ヲ確保セシメラ
ルル趣旨ニ付、左記要領ニ依リ徹底的ニ消費規正方取
計相成度

記

一 左ノ用途ニ對シテハ自今配給ヲ禁止スルコト

珐瑯(但シ特定耐酸用ヲ除ク)、一般熔接棒被覆劑、
皮革鞣用、織物加工用、防火材、砥石凝固用、磁器、
塗料、爆藥、「インキ」、墨汁、顔料、「テレツクス」
碍子、糸及織布用以外ノ「ガラス」綿、糊着、輕合
金等ノ脱酸劑、「ニッケル」鍍金、無線用珐瑯抵抗器
粘藥(但シ細線用ヲ除ク)、耐燃性電線、照明器用
「ガラス」、反射鏡及同前面「ガラス」、一般電球、無
線抵抗器絶緣線密着糊、洗滌、染色、防水、防腐、
燒入、化學工業藥品

二 左ノ用途ニ對シテハ當分配給スルモ、代替品ヘノ
轉換或ハ無硼砂、無硼酸製品ニ關スル研究ヲ促進シ
速ニ實行ニ移スコト

特殊熔接棒被覆劑、熔接、陶器、糸及織布用「ガラ
ス」綿、真空管用白金代用線、特種硬質「ガラス」、
醫藥、「アンブル」、體溫計

三 左ノ用途ニ對シテハ配給スルヲ建前トスルモ、配

合率低下ニ關シ研究シ速ニ實行ニ移スコト
光學「ガラス」、無線用送信真空管
四 需要ニ對シテハ主務部局ニ於テ嚴格ナル査定ヲ加
ヘ必要最小限度ノ配給ヲ行フコト

〇 辭 令

海軍軍醫中將 保利 信明
生徒採用試驗臨時委員ヲ命ス(海軍省)

海軍少將 田代 蘇平
海軍規格審議會議員ヲ命ス

同 矢野 志加三
海軍武官任用委員ヲ命ス

海軍生徒採用試驗常置委員ヲ命ス

海軍武功調査委員ヲ命ス

思想調査委員會委員ヲ命ス

能率增進對策調査委員會委員ヲ命ス

海軍中佐 小原 尙

海軍規格審議會議員ヲ命ス

海軍規格審議會幹事ヲ命ス

同 由川 周吉
海軍服制研究調査委員會委員ヲ命ス

軍港要港勢力標準調査委員會委員ヲ命ス
 陸海軍軍需工業動員協定委員會幹事ヲ命ス
 海軍用語調査委員會委員ヲ命ス
 陸海軍石油委員會幹事輔佐ヲ命ス
 同 中村 馨
 陸海軍石油委員會幹事輔佐ヲ命ス
 同 杉山 利一
 陸海軍航空委員會委員(幹事)ヲ命ス
 同 松本 作次
 海軍用語調査委員會委員ヲ命ス
 表彰審査委員會委員ヲ命ス
 海軍武功調査委員ヲ命ス
 海軍服制研究調査委員會委員ヲ命ス
 兵食研究調査委員會委員ヲ命ス
 支那事變從軍記章授與調査委員ヲ命ス
 潜水艦調査委員會委員ヲ命ス
 購買名簿調査委員會委員ヲ命ス(以上計四海軍省)
 第二課勤務ヲ命ス
 海軍中佐 植松 正孝
 海軍大佐 淺山 敏夫
 海軍中佐 加藤 武夫
 (各通)
 第三課勤務ヲ命ス(計四海軍省兵備局)

○ 雜 款

○普通軍事教育圖書
 昭和十七年九、十月中納庫セル普通軍事教育圖書左ノ如シ
 (海軍文庫)

圖 書 名	標 記 番 號	類 別
武士道全書 第七卷	海軍省教普 第千六百九十五號七	備 品
戰時國際法規綱要 追加篇	海軍省教普 第千七百一號	備 品
支那 忠勇列傳陸軍之部 第二三卷	海軍省教普 第千三百四十四號三	備 品
支那 盡忠錄 第四卷	海軍省教普 第千三百四十七號四	備 品
文部省 <small>高等女學校</small> 數學及理科教授要目解説要領とその趣旨	海軍省教普 第千七百二十三號	備 品
世界興廢 東洋戰史、太平洋大戰史 近代史	海軍省教普 第千六百八十號三	消 耗 品
世界興廢 東洋戰史、太平洋大戰史 侵略史(一)	海軍省教普 第千六百八十號三	消 耗 品
航空機 識別參考圖	海軍省教普 第千七百號	消 耗 品
世界優秀飛行機總覽	海軍省教普 第千七百號	消 耗 品

海軍公報(部内限) 第四千二百四十八號

昭和十七年十一月二十一日

一三三

<p>新しき英雄の風車 ソ聯邦年鑑 一九四二年版</p>	<p>品消 品消 抜耗 抜耗</p>
<p>○郵便物發送先 自今左ニ依リ發送相成度</p>	
<p>司令、主計長宛 第八拓南丸 隊機關長、軍醫長宛 多摩丸 (第三十一掃海隊)</p>	<p>司令、軍醫長宛 白雪 主計長宛 初雪 (第十一驅逐隊)</p>
<p>十一月十五日以降 三重縣尾鷲郵便局氣付 第一京仁丸 司令、主計長宛 第二京仁丸 機關長、軍醫長宛 (第二十六掃海隊)</p>	
<p>○事務所撤去 呂號第百二潜水艦艇裝員事務所ハ十一月十七日撤去セ 追テ郵便物ハ左ニ依リ發送相成度 吳郵便局氣付 呂號第百二潜水艦</p>	
<p>○宿所竝ニ電話架設 海軍技術研究所音響研究部長海軍技術大佐宮澤竹藏宅 大森區田園調布二丁目六八七番地 電話田園調布 三七七七番</p>	
<p>○取消 十月二十八日辭令欄一一三八頁下段十一行目「田部通」ノ辭令ハ取消ス</p>	
<p>○正誤 本月十三日海軍公報(部内限)令達欄「官房第五九一七號ノ五」ハ「官房第五九一七號ノ六」ノ誤</p>	

海軍公報 (部内限) 第四千二百四十九號

昭和十七年十一月二十四日 (火)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房機密第一四五四號
左表ニ依リ海軍機雷學校特修科學生ヲ採用ス

昭和十七年十一月二十四日

海軍大臣

採用資格	水中測的術及投射術			
	掌機雷兵又ハ掌水雷兵出身ノ兵科 特務士官又ハ海軍兵曹長ニシテ水中測的術及投射術ヲ修習セシムルニ適スル者			
特修科目	水中測的術及投射術			
	掌機雷兵又ハ掌水雷兵出身ノ兵科 特務士官又ハ海軍兵曹長ニシテ水中測的術及投射術ヲ修習セシムルニ適スル者			
入校期日	昭和十六年 二月上旬	昭和十六年 六月上旬	昭和十六年 九月上旬	昭和十六年 十二月上旬
	三	三	三	三
採用員	横須賀府	鎮守府	吳鎮守府	佐世保府
	三	三	三	三

○ 通 牒

官房第六九五五號

左ノ各號ニ對スル臨時海軍規格別紙ノ通定ム

別紙ハ海軍艦政本部ニ於テ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

昭和十七年十一月二十四日

海軍次官

修業期間	數	
	鎮守府	舞鶴
約三月	一〇	一
同上	一一	二
同上	一一	二
同上	一一	二

○ 辭 令

- 一、青銅鑄物
- 二、デ―鋼材
- 三、船體部軟鋼用被覆電弧熔接棒

海軍公報 (部内限) 第四千二百四十九號

昭和十七年十一月二十四日

一二三三

(各通)

遞信局書記 杉野 芳治
 遞信局書記補 横田 龍造
 同 菅野 崑平
 同 大谷 木角

第二十三軍用郵便所員ヲ命ス(海軍省) 岡部子之三郎
 海軍省事務ヲ囑託シ部内限判任官待遇トス(計同)

軍令部出仕海軍少佐 島田 航一
 第一課第一課勤務ヲ命ス(海軍司令部)

海軍中佐 杉山 利一
 第一課勤務ヲ命ス

同 植松 正孝
 第二課勤務ヲ命ス

同 三木 榮助
 (各通)

海軍少佐 今井 和夫
 第三課兼第一課勤務ヲ命ス(以上計同海軍省軍務局)

海軍中佐 泉 雅爾
 第一課勤務ヲ命ス(計同)

海軍主計中尉 今井 大六
 第十七設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ヲ爲
 艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(計同) 支出官 海軍
 省經理局長)

海軍技手 渡部 秀雄

第二部第三課勤務ヲ命ス(水路部) 佐藤 孫七

水路部ニ於ケル海象調査事務囑託ヲ解キ第八艦隊ニ
 於ケル氣象海象調査事務ヲ囑託ス

但シ報酬月額九拾圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ待
 遇セラル(計同)

水路部部員兼第八艦
 隊司令部附海軍技師 田中 作次

主トシテ兼務應ニ於テ服務スヘシ(水路部長)
 水路部部員兼上海海軍
 航路部部員海軍技師 後 藤 薫

主トシテ兼務應ニ於テ服務スヘシ(計同)

○ 雜 款

司令潜水艦變更

第二十六潜水隊司令ハ司令潜水艦ヲ呂號第六十七潜水
 艦ニ變更セリ

郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度
 横濱航空基地氣付 ヲ壹貳五
 (第二十五航空戰隊司令部)

海軍公報 (部内限) 第四千二百五十號

昭和十七年十一月二十五日(水)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第五二二一號ノ二
昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス
昭和十七年十月三十日

海軍大臣

表中第十一海軍軍用郵便所ノ項設置所ノ欄「第五根據地隊」ヲ「第五特別根據地隊」ニ、第三十二海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄「所員 專任 七人 判任」ヲ「所員 專任 六人 判任 五人 雇員」ニ改ム
(參照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(昭和十七年十月六日本欄)

官房第六九五八號
大正六年官房第一一五一號別表中左ノ通改正ス
昭和十七年十一月二十四日

海軍大臣

馬公要港部司令官以下大湊要港部司令官ヲ馬公警備府

司令長官、大湊警備府司令長官ニ改メ旅順要港部司令官ノ項ヲ削リ三重航空隊司令ノ次ニ左ノ各項ヲ加フ

相模野航空隊司令	六〇〇〇〇
追濱航空隊司令	六〇〇〇〇

(參照) 大正六年官房第一一五一號ハ司令長官以下ニ於テ要スル接待費定額設定ノ件ナリ(會計法規類集一卷一三頁)

官房機密第一四五五二號
昭和十五年官房機密第八一七一號中左ノ通改正ス
昭和十七年十一月二十四日

海軍大臣

特設海軍燃料廠ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

特設海軍燃料廠支廠	會計課長	會計課課員
-----------	------	-------

(機密會計法規類集二一五頁參照)

官房機密第一四五五三號
昭和十五年官房機密第八一七二號中左ノ通改正ス

昭和十七年十一月二十四日

海軍大臣

特設海軍燃料廠ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

特設海軍燃料廠支廠 所掌經費 會計課長

(機密會計法規類集二四三頁参照)

官房機密第一四五九號

大東亞戰爭中戰鬪其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ亡失又ハ毀損シタル被服物品及糧食品ニ付テハ海軍給與令施行細則第一百五條及第百五十七條第二項ノ規定ニ依ル審查ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ所轄長ノ證明書ヲ以テ審查書ニ代フルモノトス

海軍大臣

官房機密第一四五六〇號

海軍計算證明等戰時特例左ノ通定ム

昭和十七年十一月二十四日

海軍大臣

海軍計算證明等戰時特例

第一條 出納官吏戰時ニ際シ戰地(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ニ於ケル事變地ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ於テ又ハ戰地往返中其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタル場合ニ於テハ別紙様式ニ依ル報告書ヲ作成シ之ヲ海軍會計監督規程ニ定ムル監督ノ區分ニ從ヒ海軍省經理局長又ハ海軍經理部長(特設海軍經理部長ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ提出スベシ

第二條 海軍省經理局長又ハ海軍經理部長前條ノ出納官吏ニシテ其ノ現金又ハ物品ノ保管ニ付善良ナル管理ノ注意ヲ怠ラザリシモノト認定シタルトキハ其ノ旨當該出納官吏ニ通知スルト共ニ其ノ狀況及意見ヲ具シテ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第三條 出納官吏前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ亡失毀損シタル現金又ハ物品ニ付善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラザリシモノト認定ヲ受ケタル旨ヲ計算書ノ備考ニ記載シ支拂又ハ拂出ト看做シテ之ヲ整理スベシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ證憑書類ヲ提出スルコトヲ要セズ

第四條 出納官吏戰時ニ際シ戰地ニ於テ又ハ戰地往返中帳簿書類ヲ亡失毀損シタルニ因リ計算證明書類ノ

0464

様式第一（日本標準規格B5判）

（昭和十七年十一月二十五日海軍公報（部内限））

昭和 年 月 日

海軍省經理局長又ハ
海軍經理部長宛

現金亡失報告

- 一 現金ヲ亡失シタル日時及場所
- 二 亡失金額及其ノ歳入歳出科目
- 三 當時ニ於ケル現金保管ノ狀況
- 四 現金亡失ノ原因タル事實ノ狀況

出納官吏職官氏

名 園

0465

様式第二(日本標準規格B5判)

(昭和十七年十一月二十五日海軍公報(部内限))

昭和 年 月 日

出納官吏職官氏 名 園

海軍省經理局長又ハ
海軍經理部長宛

物品亡失(毀損)報告

- 一 物品ヲ亡失(毀損)シタル日時及場所
- 二 亡失(毀損)シタル物品ノ品名、數量及價格整理ヲ爲スヲ要スルモノニ付テハ其ノ價格
- 三 當時ニ於ケル物品保管ノ狀況
- 四 物品亡失(毀損)ノ原因タル事實ノ狀況

全部又ハ一部ヲ提出スルコト不可能又ハ極メテ困難ナル場合ニ於テハ其ノ狀況ヲ海軍會計監督規程ニ定ムル監督ノ區分ニ從ヒ海軍省經理局長又ハ海軍經理部長ニ報告スベシ

海軍省經理局長又ハ海軍經理部長前項ノ狀況ニシテ已ムヲ得ザルモノアリト認メタルモノニ付テハ其ノ全部又ハ一部ニ付之ヲ提出フ省略セシムルコトヲ得但シ寫ヲ作成シ得ルモノニ付テハ其ノ寫ヲ提出セシムベシ

前項ノ場合ニ於テハ海軍省經理局長又ハ海軍經理部長ハ其ノ狀況ヲ具シテ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第五條 出納官吏前條第二項ノ規定ニ依リ計算證明書類ノ一部又ハ寫ヲ提出スル場合ニ於テハ其ノ旨之ニ附記シ又ハ其ノ旨ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

第六條 會計規則第四百四十六條第一項及物品會計規則第十五條第二項但書ノ規定ニ依リ計算書ヲ調製スベシ

キ官吏ハ海軍會計監督規程ニ定ムル監督ノ區分ニ從ヒ海軍省經理局長又ハ海軍經理部長之ヲ指定スベシ
海軍省經理局長又ハ海軍經理部長前項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第七條 第一條乃至第五條中出納官吏ニ關スル規定ハ

前條ノ規定ニ依リ計算書ヲ調製スベキ官吏ニ之ヲ準用ス

第八條 計算證明規程戰時特例第十八條第二項ノ規定ハ戰地ニ在リテハ三萬圓、戰地外ニ在リテハ一萬圓ヲ超エザル契約ニ付テハ之ヲ適用セズ

附則

本令中第一條乃至第三條及第七條中第一條乃至第三條ノ準用ニ關スル規定ハ昭和十七年四月二十八日ヨリ、第四條及第五條並ニ第七條中第四條及第五條ノ準用ニ關スル規定ハ昭和十六年十二月八日以後ノ事項ニ、第八條ノ規定ハ昭和十七年五月分ヨリ之ヲ適用ス
昭和十七年官房機密第一〇八三號ハ之ヲ廢止ス
(様式二葉添)

官房機密第一四五六一號

艦船部隊殘務整理班ニ於ケル會計殘務整理規程左ノ通定ム

昭和十七年十一月二十四日

海軍大臣

艦船部隊殘務整理班ニ於ケル會計殘務整理規程

第一條 艦船部隊殘務整理班(以下殘務整理班ト稱ス)

海軍公報(部内限)第四千二百五十號、昭和十七年十一月二十五日

一二三七

ニ於テ會計殘務ヲ整理スベキ艦船部隊ハ當該海軍經理部長之ヲ指定スベシ

第二條 海軍經理部長殘務整理班ノ掌理ニ屬スル會計殘務ニ付海軍計算證明等戰時特例第六條ノ規定ニ依ル指定ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ班長(以下班長ト稱ス)ヲ指定スベシ

第三條 班長其ノ掌理ニ屬スル會計殘務ニ付現金又ハ物品ノ出納、保管、處分等ヲ爲ス爲必要ナル場合ニ於テハ其ノ間其ノ會計ノ區分ニ從ヒ辭令ヲ用ヒズシテ當該艦船部隊ニ於ケル會計殘務整理ノ爲資金前渡官吏、分任出納官吏又ハ物品會計官吏、物品取扱主任等ヲ命ゼラレタルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ殘務ヲ引繼シ受ケタル日ヲ以テ前任出納官吏又ハ前任物品取扱主任等ト交替ヲ爲シタルモノト看做ス

第四條 班長本規程ニ依リ會計殘務ヲ整理スル場合ニ於テ其ノ作成シタル帳簿、計算書其ノ他ノ書類ニ署名ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ルベシ

一 何々(艦船部隊名) 計算書指定調製官

何々鎮守府艦船部隊殘務整理班長

出納官吏

二 何々(艦船部隊名) 殘務整理者
何々鎮守府艦船部隊殘務整理班長

出納官吏

官 氏

名

○通牒

官房第四七七〇號ノ二

昭和十七年十一月二十四日

海軍省 副官

關係各廳長殿

急送抜軍事公用郵便物制限ニ關スル件通牒

官房第四七七〇號(昭和十七年八月六日海軍公報)ニ依ル急送抜軍事公用郵便物ハ近時激増シ航空機ニ搭載不可能トナリ一部艦船便ニ依ルノ己ムヲ得ザル狀況ナルトコロ斯クテハ至急ヲ要スル公文書ノ遅延ヲ來ス虞アルニ付不急ノ公文書、圖書及印刷物等ハ普通抜ノ軍事郵便ト爲ス様可然取計相成度

軍務一第一七五號

昭和十七年十一月二十四日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

不用櫻花袖章寄贈ニ關スル件申進

今般服制改正ニ伴ヒ不用トナリタル特務士官、准士官櫻花袖章ハ時局ニ鑑ミ此ノ際有志者ヨリ之ガ寄贈ヲ受ケ適當ナル兵備品(被服物品材料品)トシテ最モ有效ニ利用致度候條各廳毎ニ取纏メ左記寄贈票ヲ添ヘ最寄軍需部ニ寄贈セラルル様取計ヲ得度

品名	數量	寄贈者官氏名

寄贈票 應名

兵備四機密第五七七號

昭和十七年十一月二十四日

海軍省兵備局長
海軍省人事局長

關係廳長殿

外地派遣ノ雇員(備人)ノ人事取扱ニ關スル件申進

雇員(備人)ニシテ設營隊又ハ特設廳等ニ轉備又ハ派

遣セラレ共ノ派遣中身分ヲ工員ニ變更セラレタル者ノ人事取扱ニ際シテハ共ノ勤務日數ハ雇員(備人)トシテ取扱相成度

醫第四〇六號

昭和十七年十一月二十四日

海軍省軍務局長
海軍省醫務局長

各鎮守府 參謀長 殿
各艦隊 軍醫長 殿
各警備府

赤痢豫防錠使用ノ件申進

首題ノ件昭和十八年度以降當分ノ間左記ニ依リ實施ノコトニ定メラレ候條可然取計相成度

記

- 一 赤痢豫防錠ハ年四回(一月、三月、六月、十月)下士官及兵總員ニ對シ早朝空腹時ニ一日一錠宛五日間之ヲ連用セシム
- 二 赤痢豫防錠服用ハ各回共其ノ月ノ十日迄ニ終了スルモノトス但シ止ムヲ得ザル事情ニ依リ期間内ニ實施シ得ザルモノハ適宜其ノ期間ヲ變更スルコトヲ得
- 三 戰地又ハ艦船、部隊ニ勤務スル准士官以上及軍屬

海軍公報(部内限)第四百二百五十號

昭和十七年十一月二十五日

一二三九

並ニ寄宿舎居住ノ海軍要員ニ對シテモ成ルベク之ヲ
實施スルモノトス
四 赤痢豫防液ハ赤痢豫防錠使用期間中ハ之ヲ使用セ
ザルモノトス

經監一機密第一一八號

昭和十七年十一月二十四日

海軍省 經理局長

各海軍經理部長
各特設海軍經理部長
各支官
各出納官
各吏

計算證明等ノ取扱ニ關スル件通牒

曩ニ會計法戰時特例、會計規則等戰時特例及計算證明
規程戰時特例公布セラレ今回海軍計算證明等戰時特例
及艦船部隊殘務整理班ニ於ケル會計殘務整理規程發布
セラレ候處何レモ戰時ニ於ケル複雑ナル會計事務ヲ簡
易化シ事務ノ促進ヲ圖ルコトヲ目的トスルモノニ有之
之ガ計算證明ニ付テハ右ノ趣旨ニ基キ左記要領ニ依リ
取扱相成度

記

計算證明等取扱要領

一 會計檢査院ノ諒解ノ下ニ從來證明方法ヲ簡單ニシ

又ハ省略シ居リタル事項ニ付テハ計算證明規程戰時
特例ノ制定ニ因リ其ノ取扱ヲ變更セラレタルモノニ
非ザルコト

二 計算證明規程戰時特例第二條及第三條ノ規定ニ依
ル軍ノ機密ニ屬スルモノノ取扱ハ前號ノ趣旨ニ依リ
當分從來通ナルコト

三 會計規則等戰時特例第十二條ノ規定ニ依リ戰地ニ
在リテハ十萬圓、戰地外ニ在リテハ五萬圓ヲ超エザ
ル契約ヲ爲ス場合ニ於テハ契約書ノ作成ヲ省略シ得
ルコトト定メラレタル處此ノ場合ニ於ケル計算證明
ハ左ノ要領ニ依ルコト

(イ) 戰地ニ在リテハ三萬圓、戰地外ニ在リテハ一萬
圓ヲ超エザル契約ニ付テハ海軍計算證明等戰時特
例第八條ノ規定ニ依リ領收證書(請求書ヲ徵シタ
ルモノニ付テハ請求書共以下之ニ同ジ)ノミニテ
證明シ差支ナキコト

(ロ) 戰地ニ在リテハ三萬圓ヲ超エ十萬圓ヲ超エザル
契約、戰地外ニ在リテハ一萬圓ヲ超エ五萬圓ヲ超
エザル契約ニ付テハ計算證明規程戰時特例第十八
條第二項ノ規定ニ依リ計算證明ハ各應ノ便宜ニ從
ヒ左ノ各號ノ一ニ依ルコト

<p>(一) 領收證書及請書又ハ承諾書若ハ往復文書ヲ提出スルコト<small>(海軍契約規程施行手續第二條及計算證明規程第二條參照)</small></p> <p>(二) 領收證書ノミヲ提出スルコト此ノ場合ニ於テ左ノ各號ノ要領ガ領收證書ニ於テ明ナラザル場合ニ於テハ之ヲ領收證書ニ附記スルコト</p> <p>(1) 物品ノ賣買ニ付テハ其ノ品位、銘柄、寸度、容量等</p> <p>(2) 製造又ハ加工工事ニ付テハ其ノ材質、製品ノ寸度、重量等</p> <p>(3) 土地建物ノ賣買ニ付テハ其ノ所在地、地目、面積、構造、積量等</p> <p>(4) 營繕工事ニ付テハ其ノ構造、積量及仕様ノ大要</p> <p>(5) 物件ノ貸借其ノ他ニ付テハ前各號ニ準ズ</p> <p>四 戦地ニ於テ又ハ戦地往返中給與又ハ物品代等ニ付帳簿上支拂ノ手續ヲ了シタルモノニシテ現ニ出納官吏ノ補助者若ハ之ニ準ズル者又ハ受領總代人等ノ保管ニ屬スル間ニ於テ又ハ之ガ輸送ノ間ニ於テ事故ニ因リ亡失シ爲ニ債主ノ領收ニ至ラザリシモノニ付テハ海軍會計監督規程ニ定ムル監督ノ區分ニ從ヒ海軍省經理局長又ハ海軍經理部長若ハ特設海軍經理部長</p>	<p>ニ於テ事情已ムヲ得ザルモノト認メタル場合ニ限リ出納官吏ニ於テ官金ヲ亡失シタルモノニ準ジテ之ヲ處理スルコト此ノ場合ニ於テハ海軍計算證明等戰時特例第一條乃至第三條ノ規定ニ依ル手續ニ依ルコト</p> <p>五 概算拂旅費ノ支給ヲ受ケタル者戦地ニ於テ又ハ戦地往返中戦死シタル場合ニ於テ其ノ旅費ノ追徴ヲ爲サザルトキハ其ノ認許ヲ得タル旨ヲ旅費精算證書ニ記載シテ證明スルコト</p> <p>○ 辭 令</p> <p>海軍主計中佐 大 谷 茂 中華民國漢口方面ニ於ケル準備購入材料物品費支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス 海軍主計中佐 新 井 實 臨時資金前渡官吏ヲ免ス<small>(附前支出官)</small> 海軍省經理局長 臺灣總督府事務官 山 木 毅 一 郎 臺灣總督府視學官 林 猪 太 郎 海南警備府附ヲ免ス<small>(附前海軍省)</small></p> <p>○ 雜 款</p>
--	---

海軍公報(部内限) 第四百二百五十號 昭和十七年十一月二十五日 一三四一

○着任、退廳

新任 海軍省教育局長
海軍少將 矢野志加三 十一月二十一日着任
前任 同 德永 榮 同 日退廳

○試験問題發送

第四十四期高等科看護術練習生採用試験問題
右十一月二十日左記ノ通發送濟未着又ハ必要ノ向ハ至
急通知相成度

記

- 一、聯合試験參加各部ノ分ハ横須賀海軍人事部長及大湊警備府副官宛送付セリ
 - 二、單獨試験施行ノ各部ニハ直送セリ
 - 三、聯合試験參加豫定ノ艦船ニテ行動豫定變更其ノ他ノ都合ニ依リ聯合試験不能ノ向ニ對スル分トシテ横須賀海軍人事部長宛若干部送付シ置ケリ
- (横須賀海軍病院)

○郵便物發送先

十一月二十日以後左ニ依リ發送相成度
横須賀郵便局氣付 ヲ壹〇五 ヲ壹壹五氣付
ヲ壹七七

(第一聯合通信隊司令部)

○事務所撤去

冲應艦裝具事務所ヲ十一月二十五日撤去セリ

○事務引繼

在中華民國漢口臨時資金前渡官吏十月二十九日事務引繼ヲ了ス

前任	新任	海軍主計中佐	大谷	茂
同	同	新井	實	